

■受験対策ミニ講座 7号 2017■

11月に入る前に木枯らし1号が吹いた地域もあり、季節は確実に進みました。これからしばらくは気候も安定して来る事を期待しつつ、厳しい冬に向けてしっかり体力もつけながら、前進していきましょう。

【問題7：(28回3人体の構造と機能及び疾病)】

国際生活機能分類 ICF に関して正しいものを一つ選べ

- 1 対象は、障害のある人に限られる
- 2 障害を、社会環境から切り離して捉えている
- 3 健康状況とは、課題や行為の個人による遂行のことである
- 4 障害を機能障害、能力障害、社会的不利に分類したものである
- 5 世界保健機関 WHO により採択され、国際的に用いられている

正解と解説は最後に記載しています。

■Plus Column . . . . .

【コツコツガコツ】

国家試験頻出項目のたくさんの横文字にいささか、うんざりしていませんか？横文字との付き合い方のコツは、言葉の意味をとらえることです。綴りまでを覚える必要はありませんが、頭文字の意味を確認してみてください。例えば WHO 世界保健機関は World Health Organization といった具合に。

以下に出てくる ICIDH や ICF も頻出項目です。頭文字の意味を確認してみてください。

国際的な疾病分類の原型は 20 世紀初頭のヨーロッパで作られ、第一次大戦後の国際連盟を経て、第二次大戦後に国際連合に引き継がれました。ICD 国際疾病分類は世界の共通語となり、現在は 10 版が使用されています。

20 世紀初頭といえば、「ソーシャルワークの源流」の時期と重なりますね。ICD が使われるようになった背景には植民地や戦地などから持ち帰られる伝染病対策という側面がありました。この頃からグローバルなソーシャルワークの課題が生まれていたことがわかります。

ICD の補助分類として 1980 年に発表されたのが ICIDH 国際障害分類で、「機能障害、能力障害、社会的不利」の三分類が示されました。「病気の分類ではなく障害の分類」であることが画期的でしたが、当事者などからは「医学モデル的だ」との批判が寄せられました。翌年が国連の国際障害者年で、障害の捉え方について論議がされていたという背景があります。そして議論の末、2001 年に発表されたのが ICF 国際生活機能分類です。

ICF は教育・労働・社会生活のような健康関連項目に着目して生活状況を示す分類コードで、「心身機能・身体構造、活動、参加」の四分類が示され、これに問題が生じた状態を「障害」ととらえます。環境因子と個人因子がキーワードとされ、社会モデル・環境モデルともいわれます。

ICF は「人体」「障害者」「現代社会と福祉」などの科目に関わる頻出項目です。遠回りのようですが、言葉の意味を確認した上でそれぞれの関連を理解して、しっかり記憶に残しておきましょう。学習に近道はありません。努力を惜しまず、コツコツと進んでいきましょう。

■Back Number . . . . .

過去のバックナンバーはこちら→[http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page\\_id=2686](http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686)

【問題7の正解と解説】

- 1× ICF の対象はすべての人です。
- 2× 障害を社会環境の中でとらえています。
- 3× 健康状態とは、健康領域内における生活機能水準。
- 4× 機能障害、能力障害、社会的不利に分類したのは、1980 年の ICIDH 国際障害分類。
- 5○

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19KDX 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus

発信者： 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会